

アジアユースオーケストラが「香港ウィーク」で奏でたハーモニー

東京で開催された「香港ウィーク」（10月29日～11月11日）へのアジアユースオーケストラ（AYO）の参加は、この名高いオーケストラが奏でる音楽のクオリティの高さだけが理由ではありませんでした。同じく重要な理由となったのは、若い音楽家たちを一つにし、あらゆる年齢層の、文化的背景もさまざまな人々の間で友好と理解を促進するというAYOの使命です。

10月31日に東京オペラシティで開かれた「アジアユースオーケストラ卒業生によるスペシャルコンサート 日本・香港友好記念」には、日本と香港からAYOのOB・OGメンバー約30人が参加。この一夜限りの公演は大成功を収めました。

香港特別行政区の林鄭月娥（キャリー・ラム）行政長官は、「異なる文化的背景を持つ若い音楽家たちが、強い絆と友情を育む様を見るのは本当に嬉しいものです。そのため今回、行政長官となって初の日本公式訪問の計画を立て始めた時、香港と日本の友好を示すにはAYOを来日させるのがベストだと思ったのです」と語っています。

1987年のAYO創立以来、香港と日本はどちらもその成功を支えてきました。AYOは、毎年アジア各地から選りすぐりの若手音楽家を香港に集わせ、リハーサル合宿の後、海外公演を行います。

AYOは長年にわたり世界中の名だたる劇場やホールで公演を行い、その世界クラスの演

奏で絶賛を集めてきました。

2010年、若手芸術家の育成における貢献が認められ、高松宮殿下記念世界文化賞で若手芸術家奨励制度の奨励対象に選ばれたほか、2015年には、音楽という共通言語を通じてアジアの若者の友好と相互理解を促進したとして、日経アジア賞（文化・社会部門）を受賞しています。

AYOの本拠地は香港ですが、その初公演は1990年に熊本で開催されました。以来、日本はほぼ毎年、AYOによる公演ツアーの開催地に含まれており、日本と香港の音楽家はAYOへの常連の参加者となっています。

今回の「アジアユースオーケストラ卒業生によるスペシャルコンサート 日本・香港友好記念」は、ビジネスや金融、研究やテクノロジーといった分野だけでなく、音楽や文化の面でも日本と香港の関係を深め、友好を促進することを目指した「香港ウィーク」のイベントとしてふさわしいものでした。さらに、日本と香港がハーモニーのもとに力を合わせることで達成できる素晴らしい成果の一例ともなったのです。



10月31日、東京で開催された「アジアユースオーケストラ卒業生によるスペシャルコンサート 日本・香港友好記念」で挨拶をする香港特別行政区の林鄭月娥（キャリー・ラム）行政長官



東京でアジアユースオーケストラOB・OGメンバーと交流する、香港特別行政区の林鄭月娥（キャリー・ラム）行政長官（写真・中央）とAYO創設者のリチャード・パンチャス氏（左から3人目）



コンサートには日本と香港の音楽家が参加